

美術手帖

BT | 2017.11

vol.69 NO.1061

Artist Interview
FX ハルソノ

アニカ・イ / サイモン・フジワラ
ミヤギフトシ / サエボーグ / 森栄喜

LGBT、クィア、フェミニズム…
多様で流動的な性の表現を考える



性をめぐるアートと想像力

第2特集

奈良美智
インタビュー

創刊号 1967年11月15日発行 毎月1回15日発行 ISSN0007-2218 <http://www.bijutsuteketei.com>

いつ動くの? 「今」でしょ

Chim↑Pom「Sukurappu ando Birudo
プロジェクト 道が拓ける」展

蔵屋美香 評

Chim↑Pomは一般に「今」に関わるアーティストと理解されている。書籍『SUPER RAT』の冒頭にも、「時代のリアルに反射神経で反応し、現代社会に全力で介入する」とうたわれている。『Level 7 feat. 「明日の神話」』(2011)は典型例だ。東日本大震災直後、事態の重大さに誰もが身動きできずにいた2011年4月末、Chim↑Pomはいたずらをするような身軽さで、渋谷駅の岡本太郎の壁画『明日の神話』(1969)に原発事故を描いたパネルを取り付けた。まさに「今」

起きていることに反射神経で反応したのだ。「今」と同期する速さ、そして悪ふざけと紙一重の軽さ、これらが誰かが認めるChim↑Pomの特徴だ。にもかかわらず、いかにも美術史出身の辛気くさい学芸

員らしく、私はChim↑Pomの作品に見え隠れする歴史の問題に興味がある。

例えば昨年、新宿歌舞伎町で開催された「また明日も観てくれるかな?」だ。この展覧会では前回の東京オリンピックが開催された1964年が展示を貫くテーマとなっていた。会場の歌舞伎町商店街振興組合ビルも64年竣工であり、参照された作品のひとつ、ハイレッド・センターの『首都圏清掃整理促進運動』(1964)も、オリンピックのため慌てて東京を清掃する当時の風潮を踏まえて行われたハプニングである。2020年の東京オリンピックを控え、私たちのまわりでも同じように「清掃整理」が進んでいる。そんな「今」

への素早い反応を入口として、Chim↑Pomは「今」の中に回帰する過去、つまり1964年の姿を探り当てたのだ。

今回彼らのホームグラウンドである高円寺のキタコレビルで開催された「道が拓ける」は、「また明日も」展自体を素材にスクラップ&ビルドを行った展覧会だ。振興組合ビルの解体時に破壊されたジオラマを再利用して『SUPER RAT-SCRAP & BUILD-』がつけられた。風俗店で働く「みらい」という名の女性の画像は、敷地内の地面に埋められ、新たに「みらいの埋立地」という作品になった。

もっとも話題となったのは、建築家、周防貫之との協働によりつくられた敷地内を貫く道、『Chim↑Pom通り』だろう。この道は埋め立てられた「みらい」を含むアスファルトの積層でつくられているのだが、加えて道の下にある地下空間には、振興組合ビルやキタコレビル、旧国立競技場などから出た廃材を地

層のように積み上げた作品『The Road Show』がある。地層とは言うまでもなく多くの過去が累積して示す断面だから、ここにもやはりいちばん上に2017年の「今」を載せた歴史が姿を現している。

思えばかつて『ヒロシマの空をピカッとさせる』(2009)のときにも、「ピカッとさせる」行為をスタート地点として被爆者との対話が始まった。つまり、「今」動いてみることで過去との出会いが果たされたのだ。また、福島原発事故という「今」に素早く反応しなければ、『明日の神話』が扱う第五福竜丸の被爆というテーマを可視化することはできなかった。彼らの嗅覚がとらえる「今」は、多くの場合こんな風に、「今」から働きかけることでしか捕まえられない歴史を舞台上に引き出す。だから彼らの歴史は活きがよくて、辛気くさくない。

PROFILE
くらや・みか 東京国立近代美術館企画課長



上—キタコレビル内に竣工した『Chim↑Pom通り』
下右—The Road Show 2017
下左—SUPER RAT-SCRAP & BUILD- 2017

Sukurappu ando Birudo
プロジェクト 道が拓ける

キタコレビル

7月29日~9月5日

本展は2016年10月に解体が決まっていた東京・新宿の歌舞伎町商店街振興組合ビルを舞台に「全壊する展覧会」として開催された「また明日も観てくれるかな?」展の続編。同ビルとともに破壊された作品群を新たに再構成するとともに、建築家の周防貫之と協働して高円寺のキタコレビル敷地内に「Chim↑Pom通り」と名付けられた道を竣工した。



会場となったキタコレビル外観